

Jミルクが2022年9月30日に公表した「需給見通し(※2022年7月迄実績)」の予測値とその後の実績をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

《業務用需要の増加に期待～引き続き理解醸成、需要拡大に向けた取り組みは必須～》

・8月の需給状況について、都府県の生乳生産は前年を下回り、北海道は前年対比伸び率が鈍化したことから、全国では前年をやや下回る結果となった。直近の全国指定団体受託乳量(9月下旬)では今年度で最大の減少率となっており、生乳需給の緩和状況のなか生産抑制の効果が現れている可能性が高い。一方、飲用等向は牛乳(業務用・学乳除く)の増加が全体をけん引しており、前年を上回った。このため、乳製品向は今年度初めて前年を下回ることとなった。

・脱脂粉乳の需給については、全国協調の在庫対策と北海道(ホクレン)独自の国産脱脂粉乳への置換対策の効果による出回り量の増加により、在庫量は前月に比べ減少したものの、依然として前年を上回る水準。バターについては、推定出回り量は前年を上回っているものの、輸入売渡分を考慮すると在庫量は前年をやや上回る水準、前年との比較では徐々に減少率が拡大している。3年ぶりの行動制限のないお盆休みとなったこともあり、業務用を中心に需要を押し上げたと考えられる。

・9月の牛乳販売動向(インテージSRI+実績:前年比97.6%、Jミルク予測(牛乳業務用以外):99.7%)については、農水省の牛乳乳製品統計が高めとなる傾向があるため、予測値水準並み～上振れている可能性が考えられる。

・直近の動向では、生乳生産は生産抑制の効果が搾乳牛頭数の推移、今年度の粗飼料の出来を総合すると、今後も前年を下回って推移することが予測される一方で、直近(10/3週)の牛乳類販売個数は降雨や気温の低下の影響も重なり、前週よりも減少した。今後もこれまでの経過から推測すると、前年を超える水準まで回復する可能性は考えにくい。ヨーグルト類についても、全品目通じて前年を下回る低調な水準となっている。

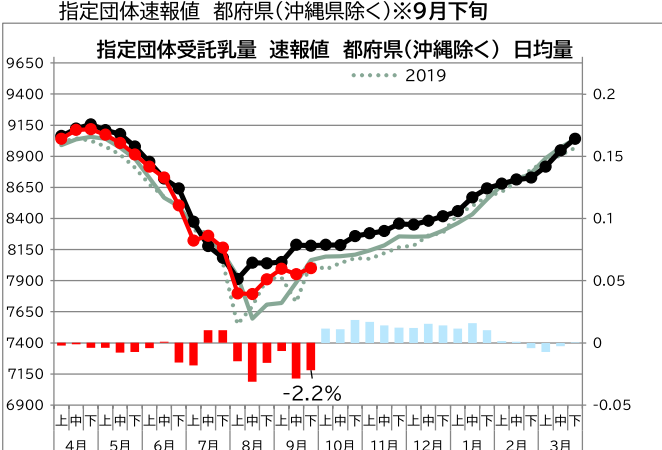
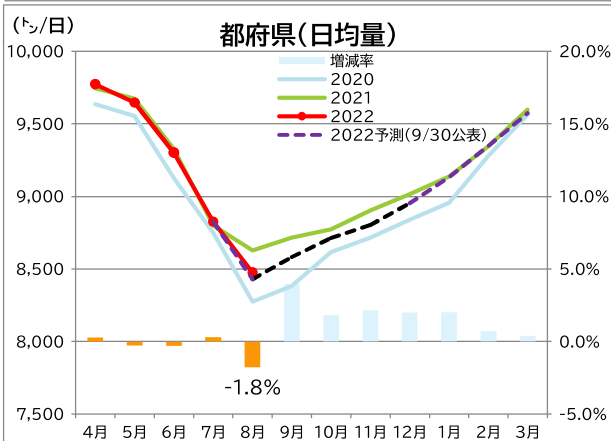
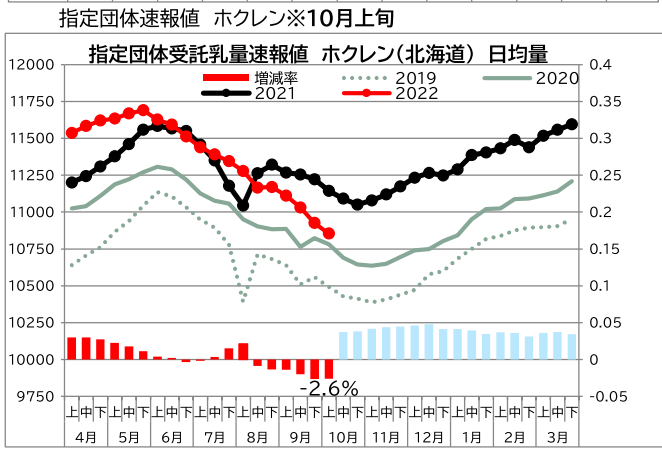
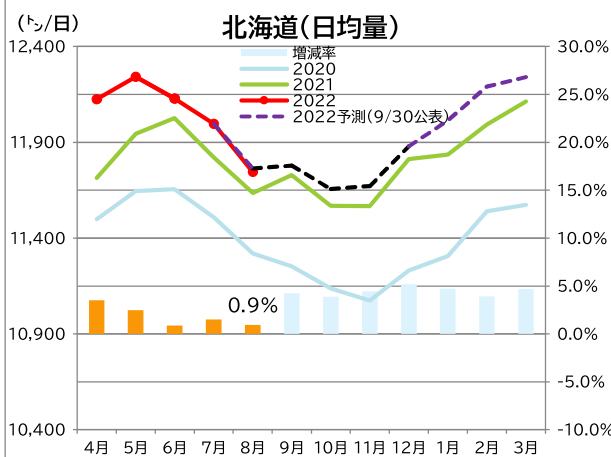
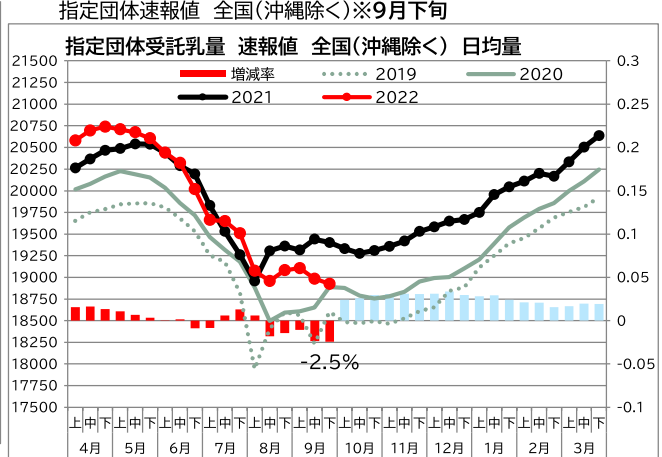
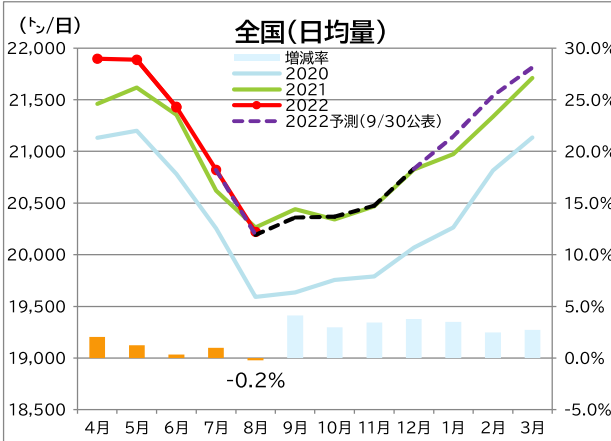
・今月11日から水際対策の緩和、全国旅行支援の取り組みがスタートしたことで業務用需要の増加が期待される。一方で牛乳類を中心とした製品価格の値上げが11月から適用されることから、更に家庭内消費を押し下げる可能性がある。影響を限りなく小さくするためには、製品価格値上げの背景等を丁寧に説明するとともに、業界内外を巻き込み一体となって需要拡大に取り組むため積極的な働きかけが重要である。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)8月の生乳生産量は、全国626.7千ト(前年同月比99.8%)、北海道364.1千ト(同100.9%)、都府県262.8千ト(同98.2%)。

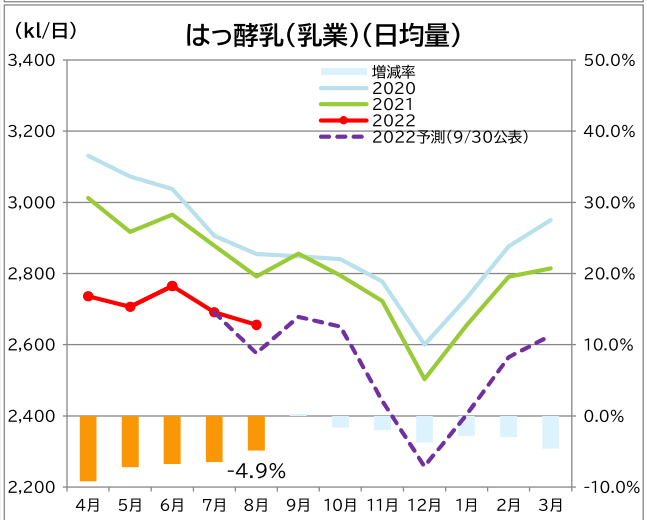
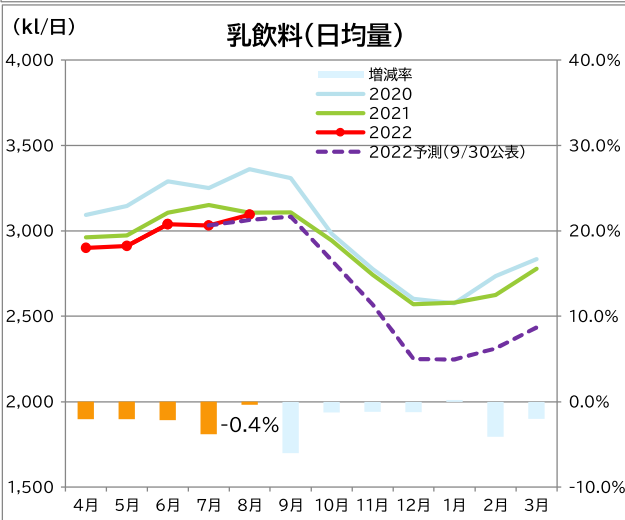
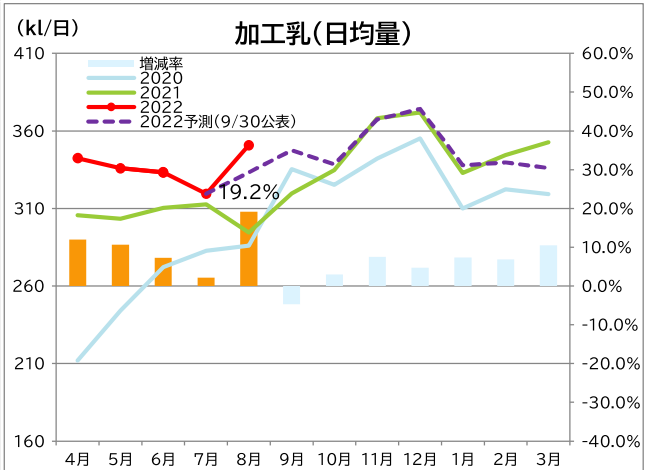
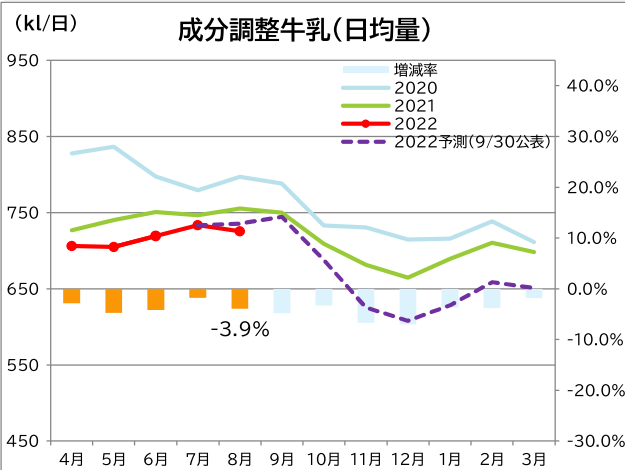
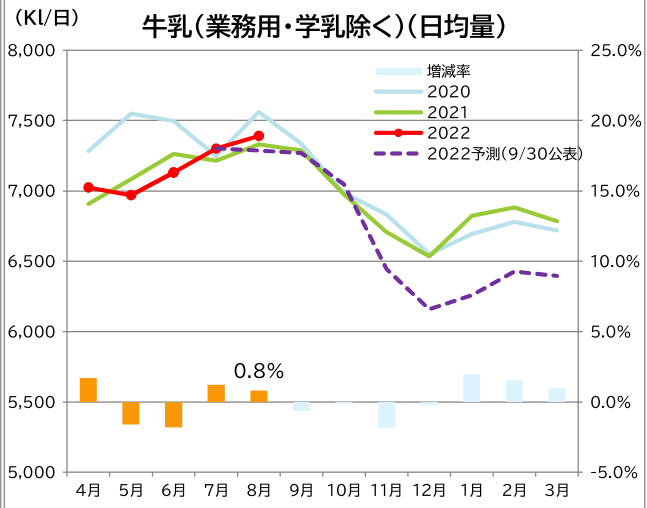
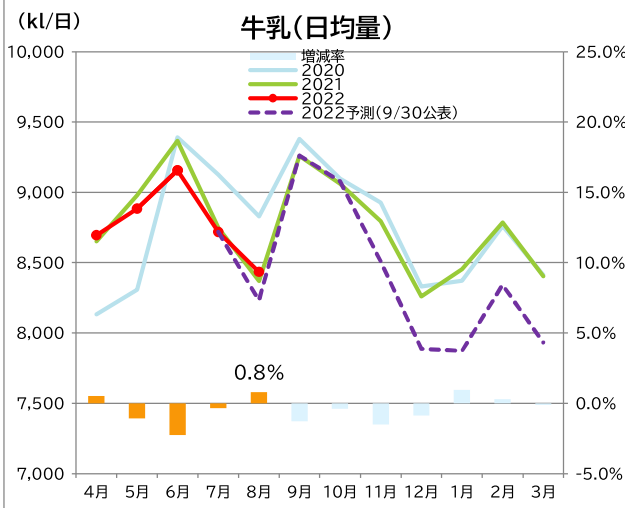
(2)直近の指定団体速報値は9月下旬で全国が同97.5%、都府県(沖縄除く)が同97.8%、北海道は10月上旬で同97.5%となっている。

(3)Jミルク予測値(全国626.0千ト、北海道364.7千ト、都府県261.3千ト)との比較としては北海道、都府県、全国で概ね予測値並みとなった。



【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

- (1)8月の牛乳等生産量は、牛乳261.5千kl(前年同月比100.8%)、成分調整牛乳22.5千kl(同96.1%)、加工乳10.9千kl(同119.2%)、乳飲料95.9千kl(同99.6%)となり、牛乳類合計では390.8千kl(同100.7%)となった。
- (2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同100.8%、「業務用」は同96.8%、「学乳」は119.2%。
- (3)はっ酵乳(乳業)は82.3千kl(同95.1%)と前年を下回って推移している。
また、非乳業実績(7月)については、同105.0%と前年を上回った。

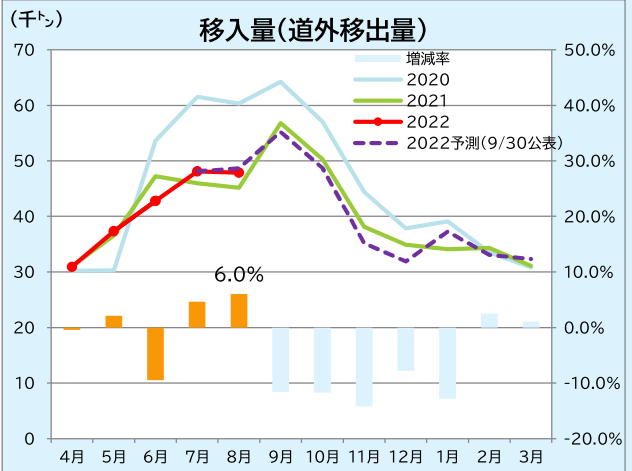
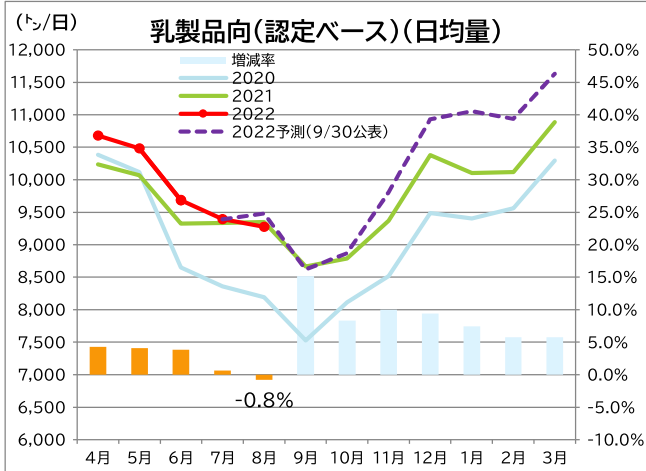
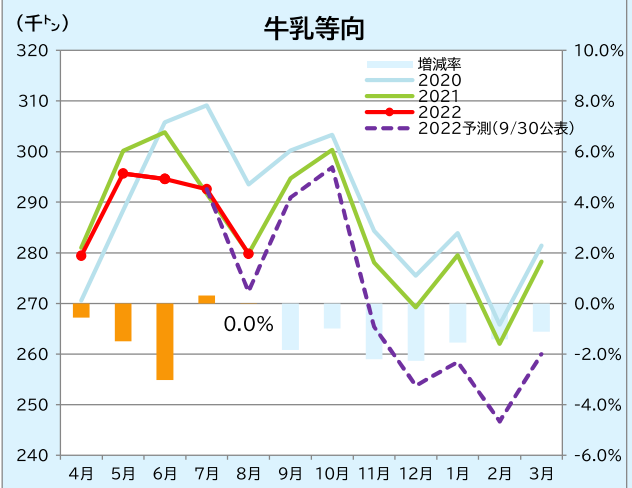
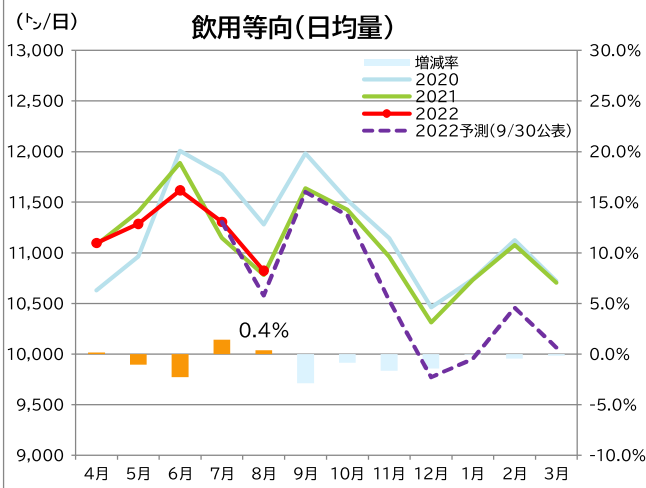
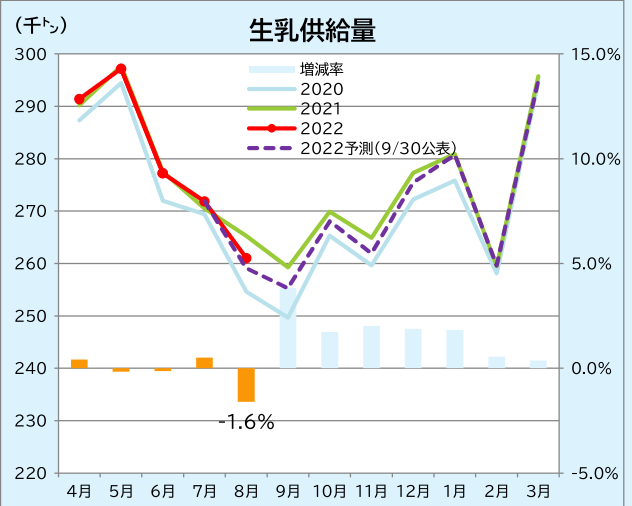
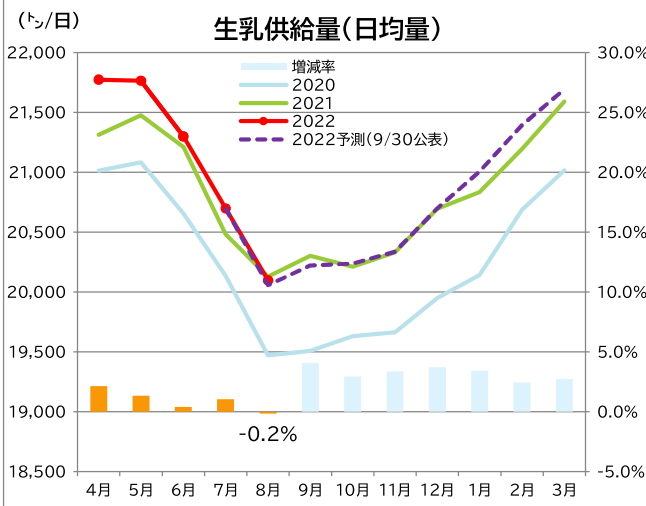


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)8月の生乳供給量は623.1千ト(前年同月比99.8%)、飲用等向335.5千ト(同100.4%)、乳製品向(認定ベース)287.5千ト(同99.2%)。
 (2)生乳供給量は前年並みの水準である一方、飲用等向が前年を上回った結果、乳製品向は前年を下回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:621.8千ト)は予測並み、飲用等向(予測値:327.9千ト)は上振れし、結果乳製品向(予測値:293.9千ト)は下振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)8月は、生乳供給量261.0千ト(前年同月比98.4%)、牛乳等向279.8千ト(同100.0%)。
 (2)北海道からの移入量について、47.9千ト(同106.0%)と前年を上回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:259.1千ト)はやや上振れ、牛乳等向(予測値:272.3千ト)は上振れ、北海道からの移入量は(予測値:48.7千ト)はやや下振れとなった。



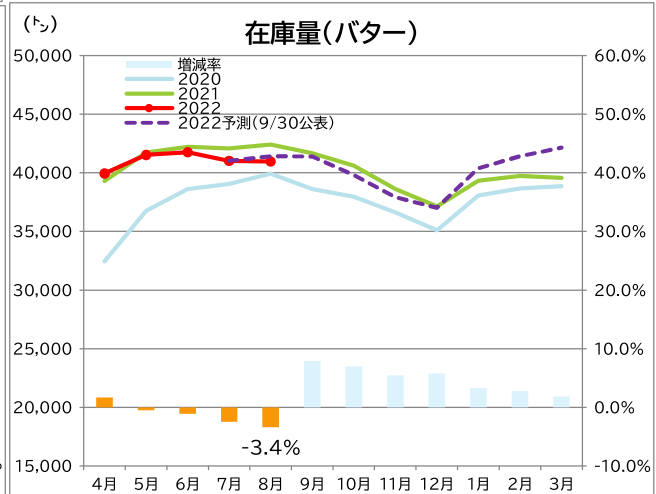
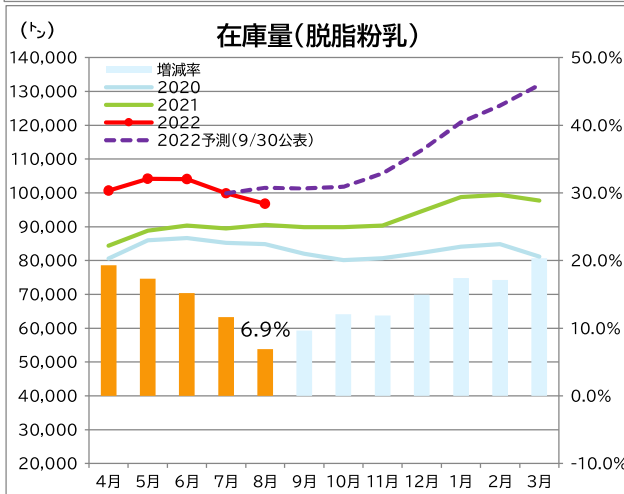
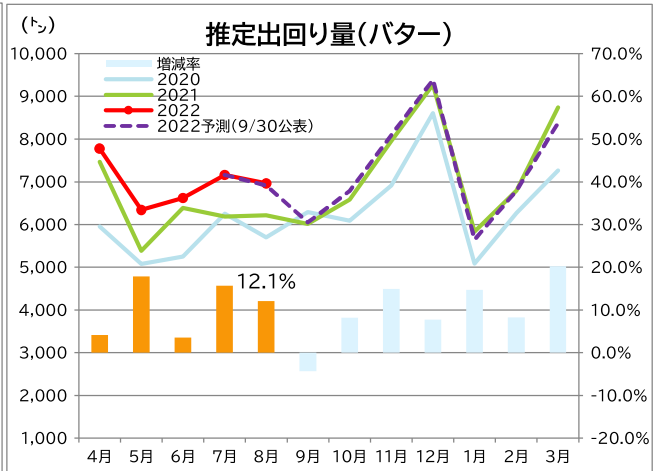
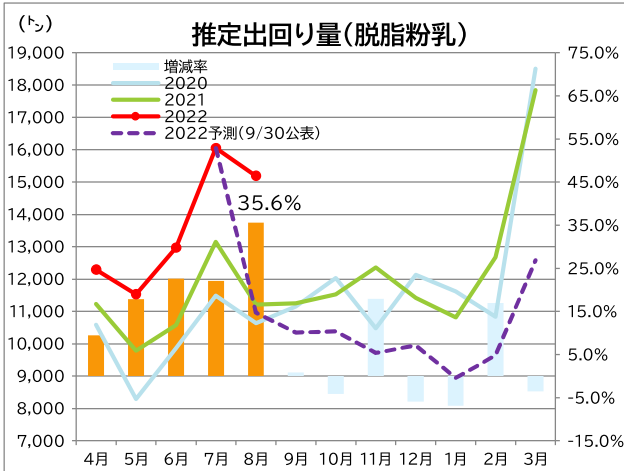
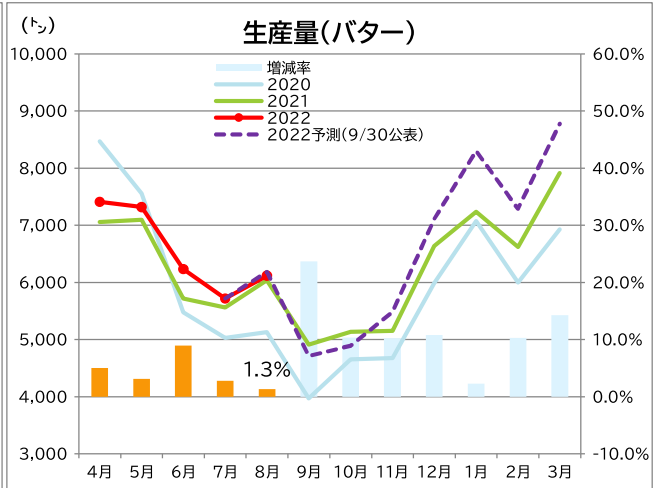
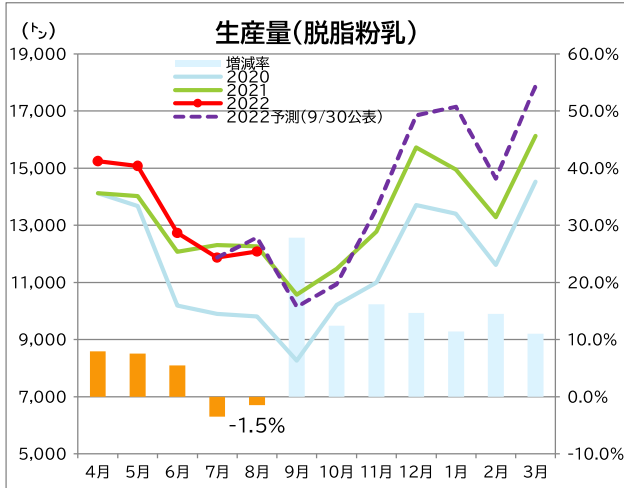
【脱脂粉乳・バター需給】

(1)脱脂粉乳について、8月の生産量は12.1千ト(前年同月比98.5%)、推定出回り量は15.2千ト(同135.6%)。結果、在庫量は96.8千ト(同106.9%)。生産量よりも出回り量が上回ったことから、在庫は前月よりも減少した。生産量は2ヶ月連続で前年を下回った。

※推定出回り量には全国協調の在庫対策と北海道(ホクレン)の独自対策による国産脱脂粉乳への置換分を含む。

(2)バターについて、8月の生産量は6.1千ト(同101.3%)、推定出回り量は7.0千ト(同112.1%)。結果、在庫量は41.0千ト(同96.6%)。生産量よりも出回り量がやや上回っているものの、国家貿易による輸入売渡分が毎月一定程度出回ること、在庫は前月よりもわずかに増加した。

※推定出回り量には北海道(ホクレン)の独自対策による国産バターへの置換分を含む。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)9月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比97.7%、成分調整牛乳:同97.1%、加工乳:同97.9%、乳飲料:同97.2%。
牛乳類では同97.6%

【参考】2020年度比…牛乳:95.5%、成分調整牛乳:93.6%、加工乳:92.6%、乳飲料:84.6%(牛乳類トータル:93.5%)

・販売単価は、牛乳:190.4円、成分調整牛乳:174.4円、加工乳:190.5円、乳飲料:150.1円。

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(10/3週)の販売個数は、牛乳:前年同期比93.9%、成分調整牛乳:同95.3%、加工乳:同91.9%、乳飲料:同93.2%。
牛乳類トータルでは同93.9%

【参考】2020年度比…牛乳:94.2%、成分調整牛乳:92.1%、加工乳:96.9%、乳飲料:88.5%(牛乳類トータル:93.2%)

【参考】2019年度比(コロナ禍前)…牛乳:94.5%

・販売単価は、牛乳:190.6円、成分調整牛乳:174.1円、加工乳:189.5円、乳飲料:149.7円。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

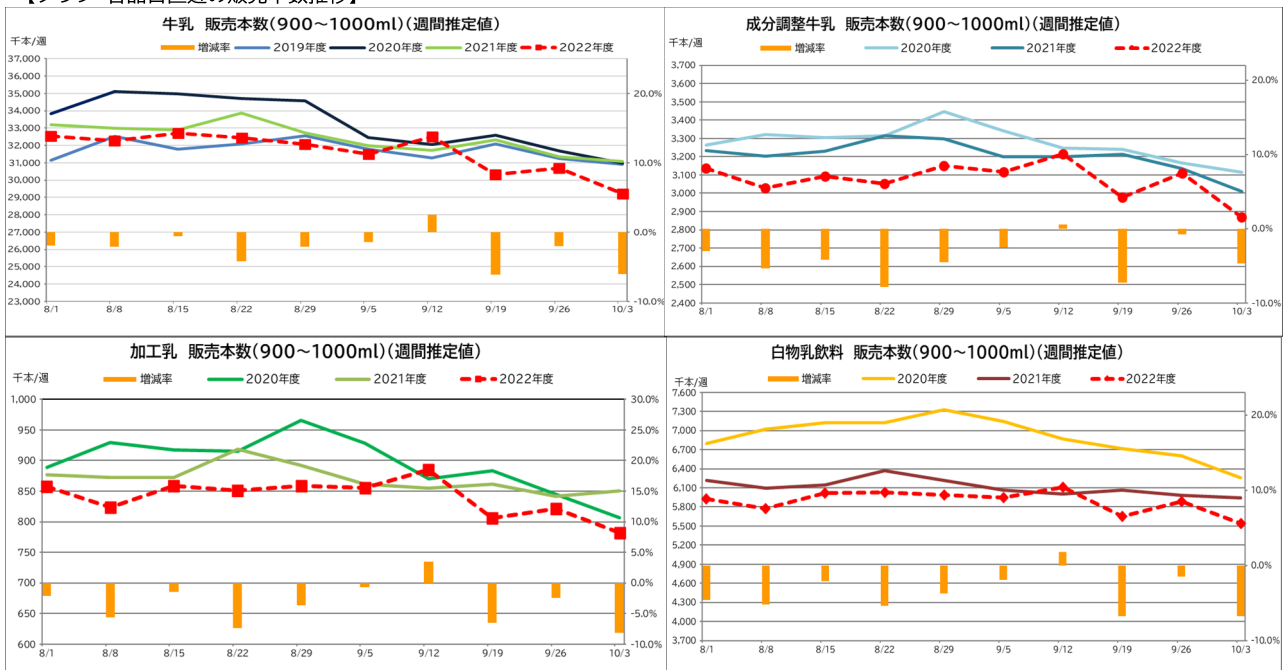
単位:千個、円

品目	区分	2022/4-	2022/5-	2022/6-	2022/7-	2022/8-	2022/9-
トータル	販売個数	163,794	172,087	170,992	186,323	187,097	175,657
	販売個数前年比	95.9	93.0	94.3	98.7	96.5	97.6
	販売単価	182.9	182.8	182.9	182.9	183.7	183.4
牛乳	販売個数	124,418	130,782	129,838	142,239	143,408	133,609
	販売個数前年比	96.0	92.7	94.1	98.8	97.1	97.7
	販売単価	189.9	189.7	189.9	189.8	190.6	190.4
成分調整牛乳	販売個数	12,656	13,149	12,977	13,756	13,647	13,243
	販売個数前年比	97.2	95.1	96.7	98.8	94.3	97.1
	販売単価	173.3	173.7	173.9	174.1	174.8	174.4
加工乳	販売個数	3,355	3,566	3,545	3,782	3,767	3,598
	販売個数前年比	99.1	97.2	98.5	99.4	95.2	97.9
	販売単価	190.9	189.9	189.5	190.6	190.3	190.5
乳飲料	販売個数	23,365	24,590	24,632	26,545	26,276	25,207
	販売個数前年比	94.3	92.6	93.4	98.0	95.0	97.2
	販売単価	150.0	149.9	149.8	149.6	149.9	150.1

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	8.15-	8.22-	8.29-	9.5-	9.12-	9.19-	9.26-	10.7-
トータル	販売個数	42,674	42,379	42,058	41,428	42,725	39,757	40,513	38,395
	販売個数前年比	98.9	95.3	97.5	98.4	102.3	93.7	98.1	93.9
	販売単価	183.5	183.4	183.5	183.3	183.8	183.3	182.9	183.4
牛乳	販売個数	32,700	32,450	32,062	31,512	32,511	30,316	30,693	29,203
	販売個数前年比	99.4	95.8	97.9	98.5	102.5	93.8	97.9	93.9
	販売単価	190.4	190.3	190.4	190.3	190.7	190.3	190.1	190.6
成分調整牛乳	販売個数	3,094	3,054	3,150	3,116	3,216	2,979	3,111	2,871
	販売個数前年比	95.8	92.2	95.5	97.5	100.6	92.7	99.2	95.3
	販売単価	174.6	175.0	174.2	174.5	174.4	174.3	173.6	174.1
加工乳	販売個数	859	851	859	856	885	806	821	782
	販売個数前年比	98.5	92.5	96.3	99.2	103.5	93.4	97.5	91.9
	販売単価	191.2	190.1	190.1	189.6	191.4	190.4	190.1	189.5
乳飲料	販売個数	6,021	6,025	5,987	5,944	6,113	5,656	5,888	5,539
	販売個数前年比	97.9	94.6	96.2	98.0	101.8	93.2	98.5	93.2
	販売単価	149.6	149.7	150.0	150.1	150.6	150.0	149.5	149.7

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表③参照)

直近(10/3週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比100%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%以上。

—昨年比ではドリンクタイプは90%以上、個食タイプ90%以上、大容量90%以上となっている。

(2)前週(9.26週)よりも全品目通じて販売個数は大きく減少した。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表④】ヨーグルト類の販売動向

単位:千個

品目	8.15-	8.22-	8.29-	9.5-	9.12-	9.19-	9.26-	10.3-
ドリンクタイプ	➡	➡	➡	⬇	➡	⬇	➡	⬇
個食タイプ	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇	⬇
大容量タイプ	⬇	⬇	⬇	⬇	➡	⬇	⬇	⬇

	: 前年比90%未満		: 前年比105%以上110%未満
	: 前年比90%以上100%未満		: 前年比110%以上120%未満
	: 前年比100%以上105%未満		: 前年比120%以上

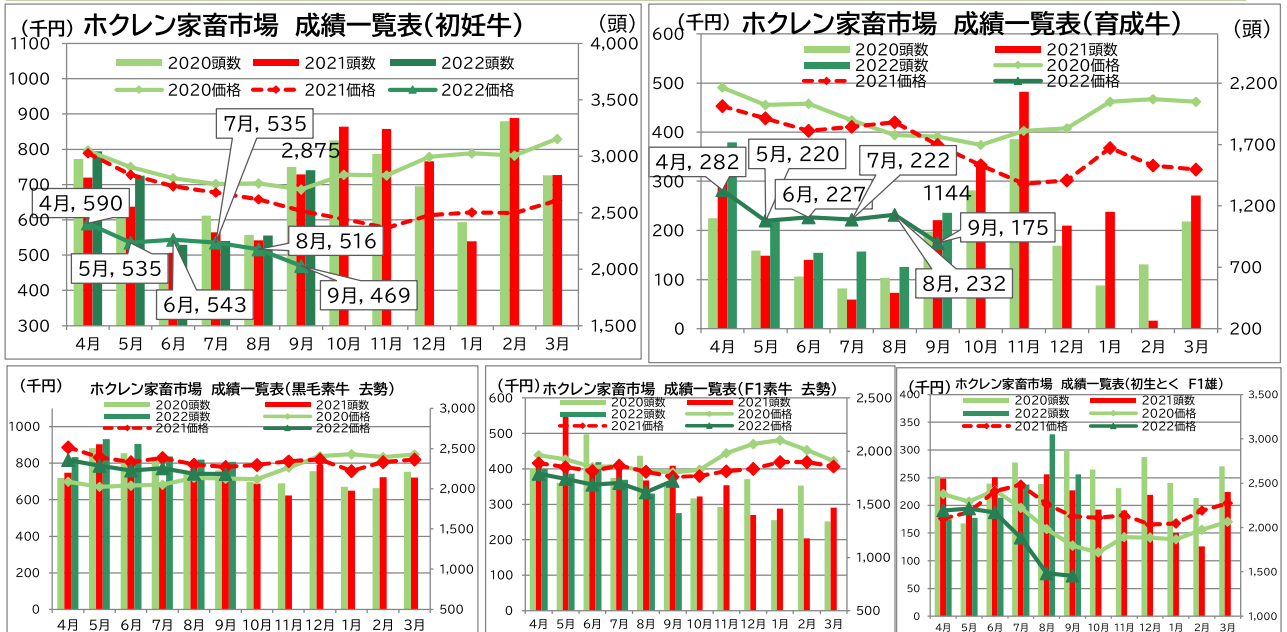
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向】

(1)9月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は469千円(前年同期比75.0%)、育成牛価格は175千円(同46.8%)、和牛素牛(去勢)価格は740千円(同95.0%)、F1素牛(去勢)価格は366千円(同97.1%)、F1初生(雄)価格は73千円(同40.5%)。初妊牛は2013年6月以来9年3か月振りに50万円を下回り、F1初生(雄)は2011年12月以来10年8ヶ月振りに10万円を下回った前月に引き続き大幅に下落した。

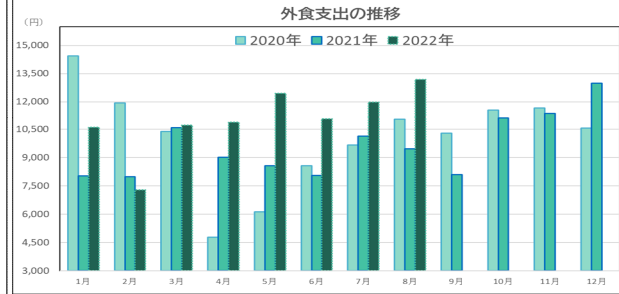
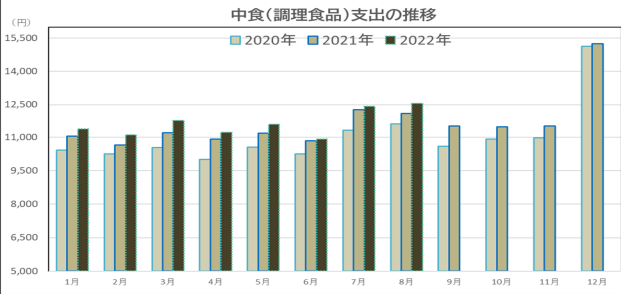
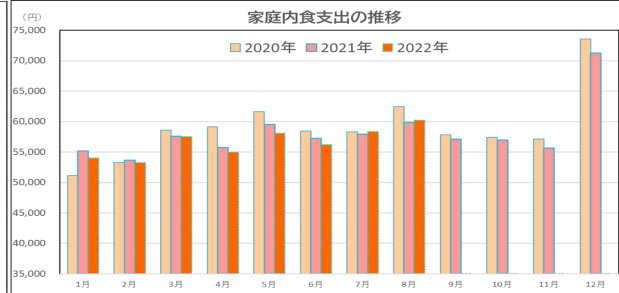
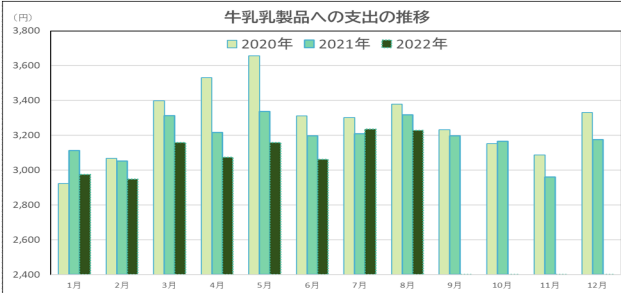
(2)上場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同101.2%、育成牛:同105.4%、和牛素牛(去勢):同104.3%、F1素牛(去勢):同75.9%、F1初生(雄):同107.5%。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

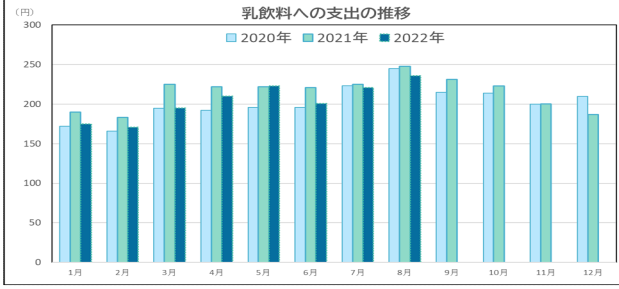
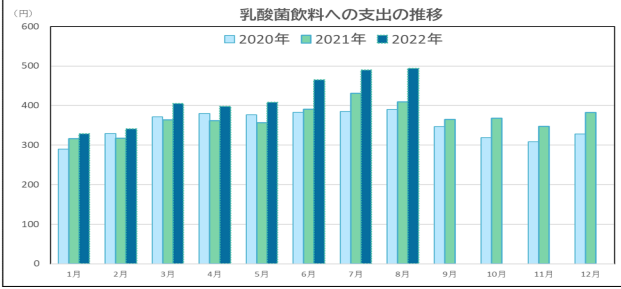
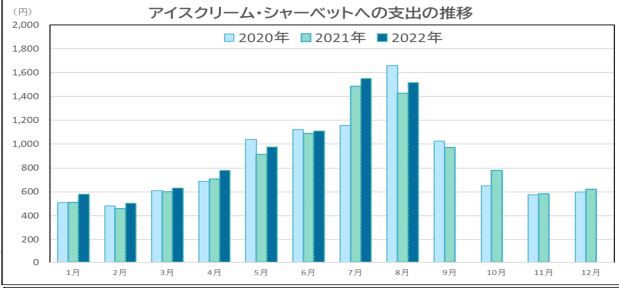
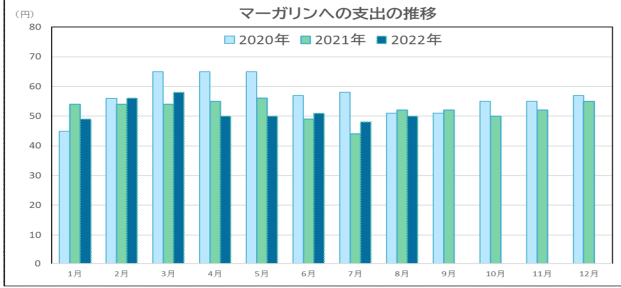
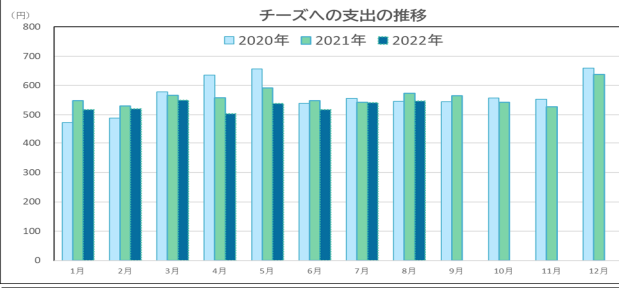
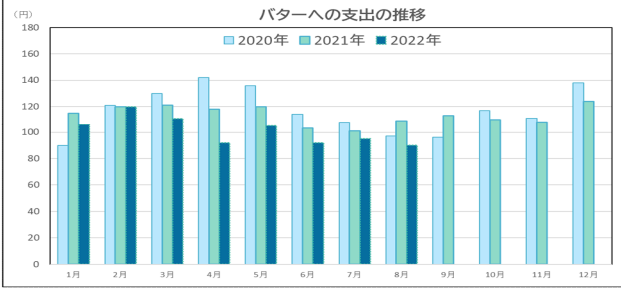
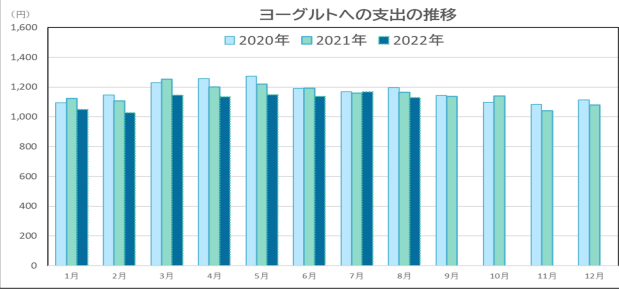
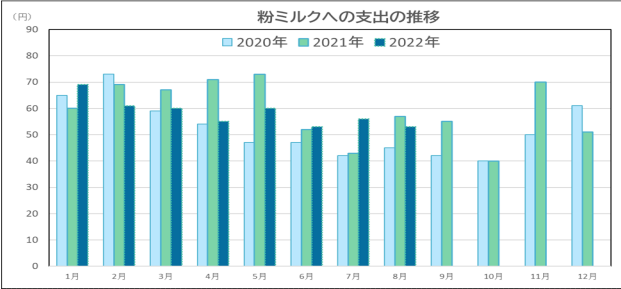


【家計支出の動向】

(1)8月の外食139.6%、中食103.9%、内食100.6%と前年を上回り、食料全体への支出額は105.6%となった。
 (2)一方で牛乳乳製品の支出額は、再び前年を下回った。(前年比:97.3%、(うち牛乳99.7%、乳製品95.6%)) ※7月:101.4%。
 ※総務省家計調査(家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)



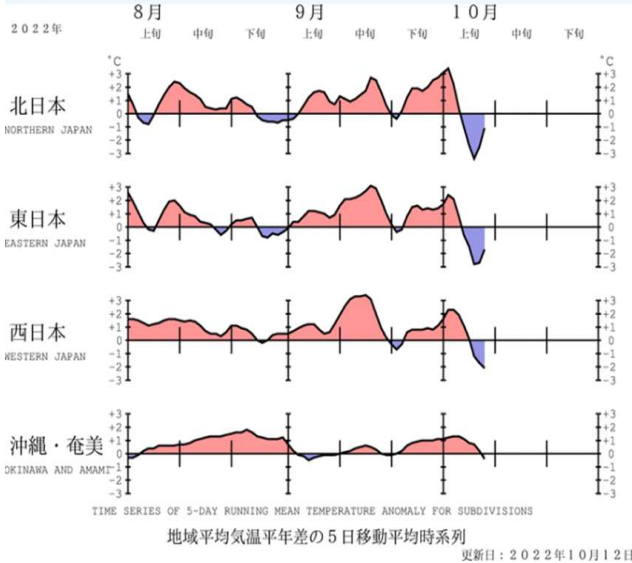
【参考:その他品目支出の動向】



【気象庁HPより全国1ヶ月予報(10/08-11/07)抜粋】

北日本日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。北日本太平洋側と東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。東日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。※出典:気象庁

前3か月間の気温経過



2022年10月06日14時30分発表
10/08-11/07の気温



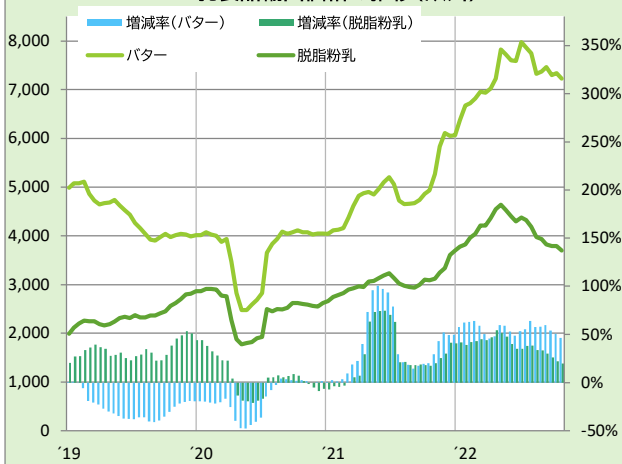
【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(9月下旬)

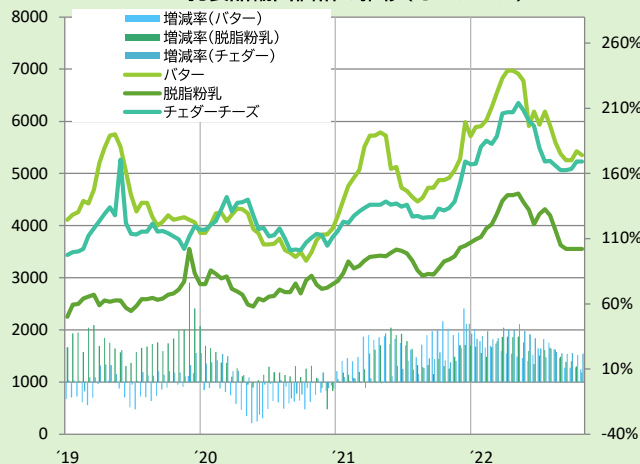
- ・欧州:脱脂粉乳3,700ドル/ト、バター7,200ドル/ト中心
- ・オセアニア:脱脂粉乳3,550ドル/ト、バター5,350ドル/ト程度、チェダーチーズは5,200ドル/ト中心

※出典:米国農務省(USDA)

(US\$/ト)F.O.B.port 乳製品輸出価格の推移(欧州)



(US\$/ト)F.O.B.port 乳製品輸出価格の推移(オセアニア)



※「2022年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」